

インタビュー

—学校再開への受け止め

廣瀬さん 一番は友達に会えることが嬉しかったです。今まで友達と一緒に授業を受けることが日常だったけど、当たり前ではないことが分かりました。

新井さん 学習面に不安があったので再開して嬉しいです。休校中の課題で、一人では解くのが難しいところも、学校では先生や友達に聞くことができるので、学校や授業の大切さが分かりました。

—感染対策をしながらの生活は

廣瀬さん マスクの着用や手洗い・うがいなど、生徒会でも呼びかけを行っています。

新井さん 友達と話すのに夢中になってしまうと、ソーシャルディスタンスを守れないこともあるけど、気を付けながら過ごしています。



三郷中学校
生徒会

会長 廣瀬 巨さん 副会長 新井 杜風さん

—感染防止対策の取り組み

毎朝ご家庭で、検温とチェックシートの記入をしていただき、生徒の健康状態を確認しています。授業中は、教室の換気、放課後には机や椅子、ドアノブの消毒等を行うなど、これまで以上に生徒の健康と環境について、気を配るようにしています。

—生徒の様子は

給食を静かに、しかも前向きで食べなければいけないなど、生徒達も我慢することが多く、教師としても歯がゆい部分もあります。また、三密を避ける生活の中では、三郷中の良いところである「みんなでつながって学び合う・かかわりあうことで学ぶ」ことがしにくい状況にあります。感染症と上手につき合いながら、新しい学習スタイルを生徒とともに考えていきたいです。

三郷中学校教諭
1学年主任



山岡 航太郎さん

—学校給食も再開へ

まずは、通常どおりに給食を作り、提供できることにホッとしました。また、給食の時間の様子を見に行ったり、学校からの要望を聞いたりして、感染防止のために子ども達が配膳しやすいよう、一部の献立を見直すなどの工夫をしています。

—子ども達への想い

おかず2品とご飯、汁物と牛乳を基本とし、さまざまな食材を組み合わせさせて美味しく食べてもらえるように献立を作っています。子ども達には、体と心にバランスのとれた栄養がとどくよう、しっかり食べて元気に学校生活を送ってほしいですね。最近、空っぽになった食缶が戻ってくるのが多く、私たちもとても嬉しく思っています。

南部学校給食センター
栄養教諭



飯島 美穂さん 上條 雄也さん



間隔を空けて給食前の手洗い



友達の発表にみんなで拍手

学校に子ども達の にぎやかな声が響く

小さな社会の中で役割を担う体験 家庭でも必要

Q 長期に及んだ休校、そして、新しい生活様式に基づく行動制限が求められる中、子どもたちの心や成長に気を配る必要があります。巡回カウンスラー・スーパーバイザーの飯田先生に話を聞きました。

Q 子ども達の成長や学びにおいて心配されることはありますか？

A 子ども達はそれぞれの成長過程で、乗り越えなければならぬ課題があります。それが十分に体験できなくなる可能性があります。

Q 具体的には？

A 年齢によっても違いますが、大きくは、社会に出るための基本的なルールを守ったり、みんなで活動したりすることです。社会性や社会化と呼んでいます。

Q 学校生活は戻りつつありますが、家庭で心掛けなければならぬことは何ですか？

A 家庭内でも子どもの社会性や社会化を進める工夫をすることが必要になると思います。現代は、家族でもそれぞれ過ごしがちですが、みんなで相談して時間割のようなリズムを作ったり、一緒に夕食の献立を考えたりの、役割を決めて掃除をしたりすることがおすすです。日常生活の一番基本になる体験は、実は社会とつながっていく流れにもなるのです。

小中学校の通常登校再開

内小中学校では、6月1日から通常通りの授業日程が始まっています。市教育委員会では、学校再開に向けたガイドラインに基づき、基本的な感染症拡大防止対策の徹底を図っています。

●学校再開に向けたガイドライン

- ▽毎朝の検温と「健康状態確認カード」への記入を依頼する
- ▽座席の間隔を空ける
- ▽原則マスク着用（熱中症など健康被害が心配される場合は外す）
- ▽1時間に1回以上換気する
- ▽給食時は、前を向き会話を控えて食べる
- ▽こまめな手洗いを徹底する
- ▽休み時間は、3つの密の重なりを作らない方法を児童生徒と一緒に考え実行する
- ▽児童生徒下校後、手を触れる箇所の消毒を行う など

授業時数の確保

時休業により、実施できなかった授業時数は、夏季休業の短縮、行事の中止や見直し等

により生み出された時間を充て、確保していきます。

- ▽1学期終業式 8月7日（金）
- ▽2学期始業式 8月24日（月）

※始業式は学校の実情で早める場合があります。

部活動や行事等について

●水泳の授業の見合わせ

更衣室やプールでの密集・密接の場面を避けることが難しいため本年度の水泳授業は行いません。

●中学校での部活動の再開

6月8日から、感染防止と体調に十分に配慮し、段階的な見直しをもって活動を実施しています。

●文化祭・運動会・音楽会など

従来の形式では行わず、規模縮小、または通常の授業の延長として児童生徒の様子を保護者に見ていただく機会等を提供できるように検討します。

●今

後も、感染のリスクを可能な限り低減しながら子ども達の健康と安全を第一に、学びを保障していきます。

図学校教育課（☎71・2460
FAX 71・2338）

安曇野内科ストレスケアクリニック院長

飯田 俊穂 先生

昭和大学医学部・兼任講師。
NPO法人長野県子どもサポートセンター所長。安曇野市巡回カウンセラー・スーパーバイザー。

Q 家庭も社会の一つとしての役割が必要ということですね。

A いわゆる現代っ子の特徴として、10代前半から後半にかけて、「自己肯定感」が上がってこないことが挙げられます。世界の先進各国が上がっている中、日本は逆に下がっています。原因の一つは、日本が社会性や社会化を育む機会が乏しくなっていることが関係していると言われます。小さな社会の中で自分が何かを担うという経験がないと、社会に出たときに苦しいですよ。家庭や地域の中でも、役割を認めたり、責任を持って引き受けたりする体験が必要です。